



情報共有って気が引けるかも...



## A. オープンソースにつながる大切なことなのよ。

保護者と情報を共有するのはもちろんだけれど、事業所同士や[ほかのサービス](#)、行政や諸機関と連携を持つということは、とても大切なことなのよ。

”オープンソース”という言葉があります。

IT業界で、ソフトウェアの設計図にあたるソースコードを、インターネットなどを通して無償で公開して、だれでも自由にそのソフトウェアの改良や再配布を行えるようにすること、を言います。開発した技術の特許を取らないで、業界に公表してその技術をだれでも使えるようにする、ということに近いわね。

IT業界にはこのオープンソースという概念があって、これこそがIT業界を急発展させた根幹だ、とも言われているわ。

この考えかたでは、無料(フリー)ということが重要なものではありません。

可視性が高く、他人も成果物に対して意見できる透明性(オープン)ということがとても重要なものよ。

”独自の[療育](#)”という名前の下にやっていることを隠してみたり、”ウチはウチ”という言葉の下に知識や情報を隠す事業所もあるみたい。

『自分の知識を隠すことで勝利者になる』これは確かに既存のやり方のひとつよ。

でも「オープンソース」はそれらとは違って『知識や情報のシェア』という考え方なのよ。

情報共有や連携する、ということは、ある意味こちらの手の内をさらけ出しているようなものよね。見学に来られたりすれば、ウチの事業所のノウハウを持っていかれる、真似されるかもしれないと思うのも無理はないわね。

しかし、開示するからこそ興味を持たれたり、共感して力を貸してくれる人も現れるものなのではないかしら。

おそらくは、こうやってオープンにすることに恐怖感を感じる人は、多くの人に見られてノウハウをコピーされるのが怖い、と感じていると思うの。

たとえば、ウチのやり方を他の事業所でもっと上手く真似されたら、とかね。

でも、真似されたとしてもウチにはウチ自身の価値があるものなのよ。

〇〇くん<sup>さん</sup>に提供している支援にしても、見えている支援という表層だけを真似ても形だけの別物になってしまうわ。

△△さんに提供している支援でも、ひとつ一つの支援の真似は可能だけれども、なぜその支援にたどり着いたのか、という考え方は持つていくことができないわ。  
そして支援する人や場所にもよるので、形だけその支援をしても全く同じことをするのは無理、なのよ。

支援する人も違うし、環境も違うし、気分も違えば何もかもが同じということはないの。  
そんな中で、情報共有や連携で手の内を見せることが、そんなに怖いことなのかしら。  
コピーできるものは表層でしかない、というのにな。

こんなレベルでの公開は無理よ、という声も聞こえてきそうだけれど、それも違う。  
もっと完璧にしてから、なんて思うと、公開する時が来ることはないわ。  
人の役に立つのは、なにも完璧な情報や成功報告だけではなくて、粗削りで笑われるかもしれないと思える情報であっても、そのときの最善、なのよ。

むしろ積極的に情報共有して、良いところ悪いところをお互いに指摘しあうことのほうがよっぽど有益なこと。  
情報共有や連携はコミュニケーションにもなるし、利用者の現在の居場所を確認することにもなるの。  
この支援はウチの得意分野ですが、その支援ならばそちらの事業所のほうが、という役割分担もやりやすくなる、かもね。

とはいえ、手の内を明かすことで、いろんなプレッシャーにさらされることも事実よ。  
でもそのプレッシャーがあるからこそ、どこかで安心して止まることもなくなると思うの。  
常により良い支援を考え、生み出し続ける原動力になるのかもしれないわね。

## [《MENU》](#)

[《受給者証ってなに？](#)

[不登校って、どう対処すればいいの？》](#)

2022-01-24 掲載